

常陸太田市の文化財

がいしゅつじしゅく いえ 外出自粛で家にこもっていることに疲れてしまったら、きげんらしにそとへ出てみませんか？



うん



あ

しもとしかずちょう さいこうじ
下利員町 西光寺の文化財

ひたちおあたしやくしよかなさごうししよ
常陸太田市役所金砂郷支所から西に
向かい、浅川にかかる橋を渡つて右折、
けんとう けんどう 62 号線を少し進んだ左手に下利
員町西光寺があります。といっても、
げんざい しゅうどう 現在は収蔵庫と仁王門があるのみなの
ですが、実はすごい文化財が残されて
いるんですよ。

しんじんしゅう 西光寺は真言宗のお寺でしたが、明
じじだい 治時代には住職がいなくて、無住のお寺
になっていました。そして大正12年
(1923)に火災がおこり、現存する
仁王門を残して本堂や薬師堂などが焼
失してしまいます。このとき、薬師如来
ざざう 坐像と仁王像は地元の方が運び出した
ため焼失を免れ、現在まで大事に残さ
れてきました。

文化財用語解説 一木造り

きで 木で仏像などを造るときは技法のひとつで、
いっぽん 一本の木材から像を彫りだしたものをいいま
す。あたま 頭と胴が一本の木材で彫られているもので
あれば、うで 腕や足を別の木材を組み合わせていて
も一木造りといえます。たい 対して、あたま 頭と胴の部分
も別の木材で彫り、それらをぎ合わせて造る
ものをあ 寄木造りといえます。

わ 分けることによって、
ちい 小さな木から大きな仏像を造
れるようになったよ



← 寄木造り

もくぞうにおうぞう
木造仁王像のお話

おとしず 西光寺を訪れるとまず目を引くのが
おお 大きな仁王像です。「仁王」とは別名「金
ごうりきし 剛力士」といい、お寺の山門に1対で置
かれていきます。お寺に敵が入ってこな
いように見張る役割があり、ギョロッ
とした大きな目特徴的です。
あぎよう 阿形(写真右)はケヤキの一木造りで
たか 高さは236センチ・重さは2330キログラム、
くち 口を大きく開け、怒りを外に表してい
るようす 様子が見られます。やうぎよう 写真
ひだり 左)はカツラの1木造りで高さは23
1. 2センチ・重さは246キログラム、こちら
は口を一字に閉じて怒りを我慢して
いるようすが見られます。どちらも

片腕の手首の先が無くなっていました
が、これは大正12年に運び出されたときに焼けてしまったといわれています。

地元では昔から、この仁王像の股の下をくぐると無病息災※1になるといわれています。お寺は無くなってしまいましたが、この場所が子どものあそび場として、地域の人たちに親しまれていたのでしょうか。

※1 無病息災…病気にせず、健康であること。元気なこと。

悪いことしてないのに、ドキドキしちゃうね…



文化財だいすき ユウコさん

もくそうやくしによういざそう 木造薬師如来坐像のお話

像の高さは143.7センチメートル(台座を含めると290.7センチメートル)で、平安時代後期に造られました。

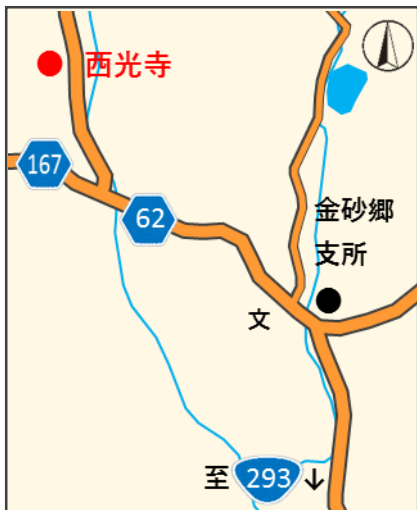
この像が造られた頃、それまで中国からの影響を受けた仏像が多かったなか、日本独自の様式を確立した、定朝

という仏師※2がいました。彼の作風は当時の平安貴族に受け入れられ、以降も多くの仏師が真似をし、それが定朝様として広まりました。この木造薬師如来坐像も、丸い顔や浅く平行に彫られた衣服のしわといった定朝様の特徴をもち、それが貴重であることから、明治44年(1911)8月9日に国の重要文化財に指定されました。

木造薬師如来坐像は、普段は収蔵庫にしまわれているため、気になった方は、毎年10月に行われる「集中曝涼」の際に訪れてみてください。

※2 仏師…仏像をつくる人のこと

アクセス 下利員町957 (P) (📷)



とってもやさしい顔をしているね



文化財用語解説 薬師如来

正式には薬師瑠璃光如来といい、阿彌陀如来が死後、来世において極楽浄土に導いてくれる仏様であるのに対し、薬師如来は生きているうちに救いの手を差し伸べてくれる仏様です。左手には薬壺(体の病も心の病も治せる薬が入っているという壺)を持っているのが特徴で、この世のすべての人の心と体の健康を願っています。



ユウコさんのおやくそく 文化財見学のマナー

- 文化財は地域の貴重なお宝です。マナーを守って見学しましょう。
- 文化財をよごしたり、こわしたりしないようにしましょう。
- 所有者や管理者、近所の方々の迷惑にならないようにしましょう。
- 写真や動画を撮る前に、撮影してもよいか確認しましょう。

新型コロナウイルス を広めないために



- 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、次のことを守りましょう。
- 熱が出ている、倦怠感があるなど、少しでも体調が悪いときは無理に出かけない。
- お友だちなどを誘って、大人数で出かけるのを控える。
- 一緒に行った人とあまりおしゃべりしない。
- (ほかの見学者がいた場合) 人との間隔をあけて見学する。